

国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議
展示・学習等ワーキンググループ(第2回)

国立公文書館における情報交流機能に係る
現状及び今後の取組等について

情報交流機能の将来イメージ

<目指すべき情報交流機能の在り方>

国立公文書館の社会的認知度をより高める必要性

- 我が国の歴史を伝える重要な公文書を保存し、利用提供する責務を負う機関として、知的資源としての公文書が社会に有効に利活用されるよう、自らの存在について広く発信し、理解の促進を図る
- 活動の各フェーズにおける外部との連携を通じ、公文書の保存・利用に係る多角的な情報交流の拠点としての役割を果たす

国立公文書館の機能・施設の在り方に関する基本構想(平成28年3月31日)より

<今後の展望等>



① 情報発信の強化

- ・ターゲット、目的を明確化した戦略的な広報のさらなる強化
- ・SNS等、最新技術の積極的な活用/マスメディアの活用

② 館と利用者、館の利用者同士の交流促進

- ・メンバーシップ制度(友の会)の充実等による館と利用者、及び利用者同士の交流の推進
- ・交流のための施設(セミナールーム、カフェ等)やツールの整備
- ・外国人を含めた多様な来館者へのサポート体制の整備

③ 国内外の関係機関等との連携によるセンター的機能の推進

- ・地方文書館や関係団体との情報ネットワークの構築、情報交流の拠点整備
- ・館の諸活動(受入、保存・修復、利用、展示、学習等)における外部機関の活用、連携構築
- ・国際的な公文書館活動、海外の公文書館との連携強化

<体制強化>

広報、国内外の関係機関との連携推進のための専門スタッフの任用、情報交流に関する外部専門家の活用等による体制強化

情報交流機能に関する取組の現状

◆実施状況

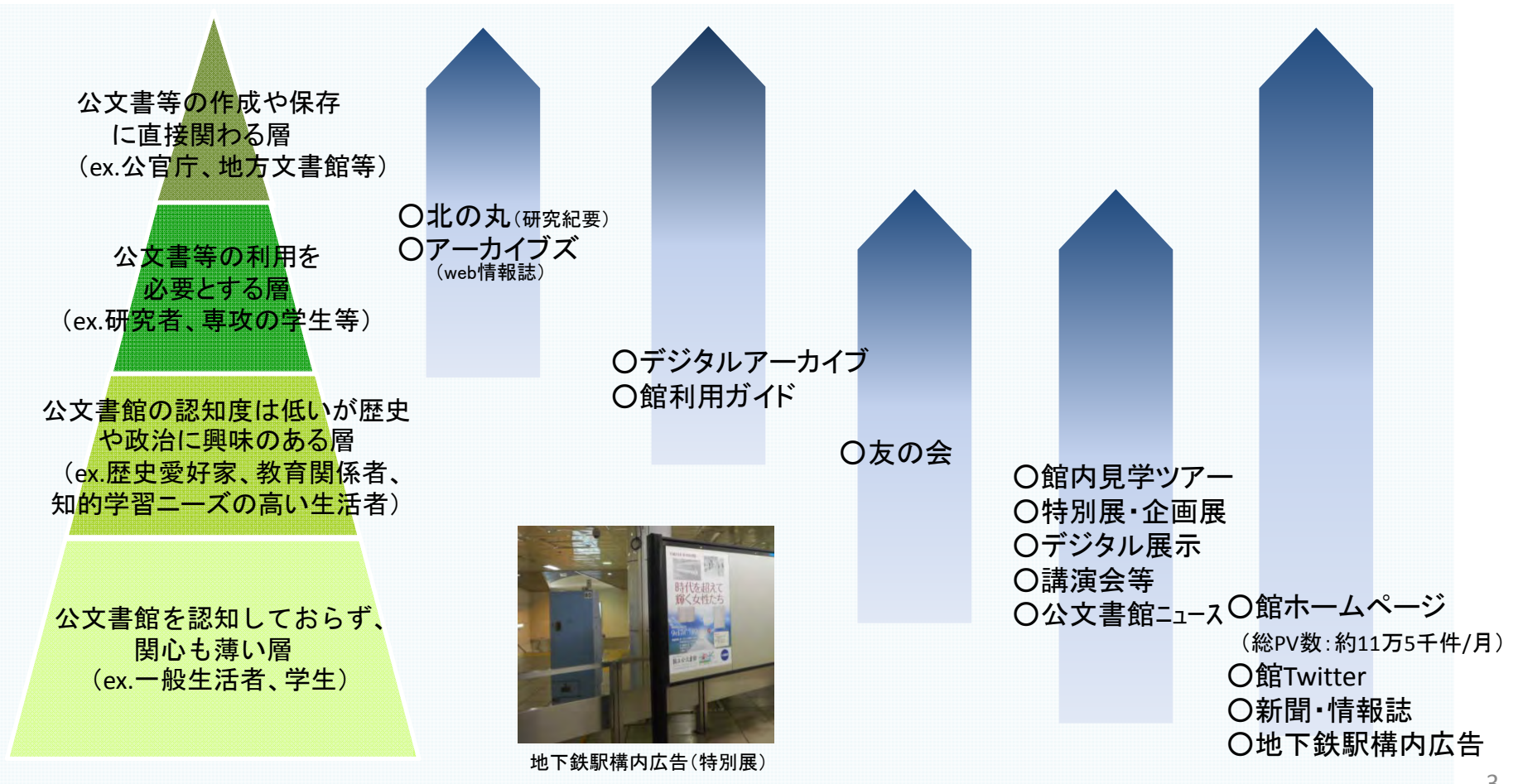
- 各種媒体を通じた情報発信、ターゲット・目的に応じた戦略的な広報



Twitter
(フォロワー数: 31,724人
※平成28年10月末時点)



国立公文書館ニュース
(年4回発行)



情報交流機能に関する取組の現状

○ 「国立公文書館友の会」

平成27年9月、登録者に展示・イベント等の情報を提供することで国立公文書館の積極的な活用等につなげるため発足(登録者 907人(平成28年10月末時点))。国立公文書館と利用者の交流等のさらなる活動の展開に向けて会員向け企画等を実施。



友の会会員向け内覧会

○ 関係機関との連携協力

＜国内＞国及び地方の公文書館等の長等が参集する「全国公文書館長会議」(平成元年度～)、アーカイブズ関係機関・団体間の連携・協力の場である「アーカイブズ関係機関協議会」(平成19年度～)等を開催。

＜国際＞国際公文書館会議(ICA)及びその同地域支部が主催する国際会議等への参加、海外の公文書館との交流、海外からの来館者への対応などを通じて、国際的な公文書館活動に貢献。

◆体制 (本館)

＜広報＞5名(広報専門官1名、公文書専門員1名、専門調査員1名、期間業務職員2名)※見学等の他業務と兼務

＜連携＞4名(公文書専門官1名、公文書専門員2名、期間業務職員1名)※研修等の他業務と兼務

＜国際＞3名(公文書専門官1名、公文書専門員2名)

現在の情報交流施設等

エントランス



休憩スペース
(1階展示会場・2階閲覧者用休憩室)



受付・グッズ販売



館広報スペース
(大型モニター・広報誌用ラック)



情報交流施設等に係る課題

<施設>

- ・来館者用のスペースは、1階展示ホールに設置されたソファ・椅子及び2階閲覧者用休憩室に限られ、面積も狭隘。来館者が快適に滞在し交流できる施設がない。
- ・飲料の自動販売機は設置されているが、来館者用飲食施設(カフェ、レストラン等)はない。
- ・エントランス・スペースは区切られておらず、1階受付・展示ホールと共通。
- ・特別展目録、館製作有償頒布物の販売は受付カウンターで行っており、多種多様なグッズを販売できる専用のショップはない。

<設備等>

- ・来館者用の洗面所・ロッカールームなどの付帯設備も不十分。
- ・1階中央スペースに広報誌等を置く棚を設置しているほか、大型モニターで、館紹介DVD等の動画を放映しているものの、館の活動紹介・PRを行う専用のスペースはない。
- ・外国人来館者を想定したガイド、ツール等の整備が不十分。

<体制>

- ・広報の専任スタッフはおらず、職員が見学等の他業務を兼任して実施しており、広報に関する専門知識、戦略の企画立案・実施能力等を強化する必要がある。
- ・友の会を発足させ、各種会員サービスを実施しているが、さらに活動を充実させ、会員数を増やすために、実施体制を強化する必要がある。
- ・国内外の関係機関と連携し、情報交流のセンター的機能を推進するための専任スタッフが必要。



情報交流施設等に係る課題への対応

<施設・設備等>

- ・全ての来館者が快適に滞在できる、ユニバーサルデザインに配慮した施設づくり
- ・来館者同士の交流の場として利用できるスペースを提供
- ・来館者の交流の場となる飲食施設(レストラン、カフェ等)を設置
- ・十分な広さの洗面所、ロッカー等を確保
- ・館の役割、機能について紹介し、館のPRを行うスペースの確保
- ・来館者の利便性、外国人来館者に配慮した総合案内(受付)

<体制>

- ・広報の専任職員の配置や、外部専門家の活用により、ターゲット・目的に応じた戦略的な広報活動を展開するための体制強化
- ・館を拠点とした交流の促進のため、館と利用者、館の利用者同士の交流の充実を図るとともに、館に関係する国内外の関係機関との連携ネットワークを構築していくための人員の配置

情報交流業務等に必要な施設・設備

必要な施設・設備	用途	面積	要件
共通機能			
エントランス等 国立施設としてふさわしい来館者へインパクトを与えるようなエントランス	<ul style="list-style-type: none"> ・来客用エントランス ・総合案内・受付 ・外国語対応 	500㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスからのスムーズな動線とユニバーサルデザイン等に配慮した総合案内、受付。 ・来館者の利便性に配慮しつつ、不審者等の侵入を防ぐセキュリティ機能を整備。
共通利用施設 来館者が快適に過ごすことが可能な施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン・カフェ ・休憩室 ・ショップ(グッズ販売) ・館PRスペース ・交流広場 等 	800㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・資料・業務への影響の観点から、安全衛生の確保、施設・設備の配置等に十分留意。 ・レストラン・カフェ・ショップは、全ての施設来館者が立ち寄れる場所としつつ、単独の目的での来館も想定し、外部からも入店しやすいよう、配置・動線に配慮。物品販売用のバックヤードも確保。 ・友の会会員等、来館者が集い、交流できるスペースを用意。
その他機能			
来館者用スペース 快適・安全に館内に滞在できるための施設・設備の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・展示観覧者・閲覧室利用者用ロッカールーム ・洗面所 ・休憩室 等 	550㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカールーム、洗面所、休憩室等は多数の来館者にも対応可能な十分な広さ、数量を確保。